

2021年9月19日 午前礼拝 説教:大木英雄牧師
「御言葉に従ったピリポ」

使徒 8:26~31

- 26 ところが、主の使いがピリポに向かってこう言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」(このガザは今、荒れ果てている。)
- 27 そこで彼は立って出かけた。すると、そこに、エチオピア人の女王カンダケの高官で、女王の財産全部を管理していた宦官のエチオピア人がいた。彼は礼拝のためにエルサレムに上り、
- 28 いま帰る途中であった。彼は馬車に乗って、預言者イザヤの書を読んでいた。
- 29 御霊がピリポに「近寄って、あの馬車といっしょに行きなさい」と言われた。
- 30 そこでピリポが走って行くと、預言者イザヤの書を読んでいるのが聞こえたので、「あなたは、読んでいることがわかりますか」と言った。
- 31 すると、その人は、「導く人がなければ、どうしてわかりましょう」と言った。そして、馬車に乗っていっしょにすわるように、ピリポに頼んだ。

御言葉と状況

(1)御言葉

使徒 8:26, ところが、主の使いがピリポに向かってこう言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」(このガザは今、荒れ果てている。)

エルサレムからガザまで 100 キロ

(2)状況

ピリポはサマリヤの町でとても恵まれていました。汚れた霊が追い出され、中風の人が癒され、歩けなかった人が歩けるようになりました。イエス様の福音を語ると多くの人が救われました。このように恵まれた状況にいるのに神様は「ガザに行きなさい」と言われるのです。(このガザは今荒れ果てている)

皆様このような状況で神様の御言葉に従えますか。ピリポは神様から直接言われました。ここが人生の分かれ道です。秋山先生は今、富山県の教会の牧師です。秋山先生が神学生の時、北九州教会のケン・ボード先生が、調布教会の宣教大会に招かれてメッセージをされました。ケン・ボード先生は

使徒 8:26, ところが、主の使いがピリポに向かってこう言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」(このガザは今、荒れ果てている。)

ここからメッセージをされました。秋山先生は調布教会で青年会を任されて、とても恵まれていました。しかしこの御言葉に従って北九州教会に 1 年間、ケン・ボード先生がアメリカファローに行っている間、北九州教会を牧会されました。

私の場合も神学校2年生の時、滝山教会は無牧だったのでバーゲット先生が月に1度メッセージに来られていましたが、バーゲット先生は他の教会からも呼ばれるので、私にバーゲット先生の代わりに行くように言われました。しばらくしていると滝山教会から「牧師になってください」と招聘されました。私は高等学校の教師はしていましたが、気がばりができないので無理だとお断りました。しかし祈ってくださいと頼まれました。

詩篇 37:5, あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。

御言葉が与えられました。イエス様を信頼すればよいのですが、それがなかなか出来ないのです。滝山教会の役員から「滝山教会に何か問題がありますか」と尋ねられましたが、「滝山教会には何も問題はないが、私がみ言葉を信頼しきれないのです」と答えました。そして卒業式を迎えるようになり、これ以上待ってくださいとはいえなくて承諾しました。

マタイ 1:18, イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。

マタイ 1:19, 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。

マタイ 1:20, 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」

マタイ 1:21, マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

マタイ 1:22, このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。

マタイ 1:23, 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

ヨセフはフィアンセのマリヤがまだ婚約中なのに身重になったのです。

申命記 22:23, ある人と婚約中の処女の女がおり、他の男が町で彼女を見かけて、これといっしょに寝た場合は、

申命記 22:24, あなたがたは、そのふたりをその町の門のところ連れ出し、石で彼らを打たなければならない。彼らは死ななければならない。これはその女が町の中におりながら叫ばなかったからであり、その男は隣人の妻をはずかしめたからである。あなたがたのうちから悪を除き去りなさい。

マリヤが石打の刑にされるのです。ヨセフの悩みは想像することが出来ません。そんな時、主の使いがヨセフに語りかけてくださいました。

「ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。マリヤが身重になったのは他の男性との肉体関係によるのではない。聖霊によるのだ。」

そんなことを言われても今までに聖霊によって身重になった女性の話を聞いたことがないので。

「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」
(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。) これはイザヤ 7:14 の預言の成就です。

イザヤ書 7:14, それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

ヨセフは最悪の状況で御言葉を信頼するのです。

私と家内の結婚の時も、家内の母が私との結婚を強引に勧めたので、家内は悩みました。そして私と話し合っても、私は心配りができないのです。私は大学院で物理の研究をしていました。物理の研究に心配りはいらないので、家内がいくら「心配りの出来ない人とは一緒になれない」と2時間ぐらい話を聞きましたが、私には心配りがそんなに大事なこととは思えないのです。そして一緒に祈ろうということで祈りました。

ヨハネ 11:40, イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」

私は「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る」を何回も何回も繰り返して祈っていました。今思うとどうして「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る」を繰り返して祈ったかわかりません。しかし家内はその御言葉を信じたのです。そして私と家内は結婚しました。

そして高等学校の職員住宅の13倍のくじ引きの日を忘れてしまいました。残ったくじが当たっていたのです。そして瀬戸へ引っ越し、瀬戸教会へ導かれ、そこでベテイ先生とお会いするのです。そして私達夫婦が赤ちゃんをいただいた日に私は神学校へ行き決心をしました。

これは家内が状況ではなく御言葉を信頼した結果です。家内も御言葉に信頼しようと強く決心したのではないのです、気が付いたら信じていたのです。

使徒 8:27, そこで、彼は立って出かけた。すると、そこに、エチオピア人の女王カンダケの高官で、女王の財産全部を管理していた宦官のエチオピア人がいた。彼は礼拝のためエルサレムに上り、

ピリポはものすごく悩んで決心したのではないと思います。神様がなさることはピリポの意志も支配されているので、当然のように出かけたのです。エチオピアはエルサレムから2000キロも離れています。礼拝のためにエルサレムに行った。北海道から鹿児島まで1500キロです。

エチオピアから 2000 キロ離れたエルサレムまで礼拝に行くことは、よほどの信仰がなくてはできないことです。エチオピアはエジプトですから BC1400 年に神様が紅海の中に道を作り、イスラエル人を救い出した話を誰かから聞いているのです。

使徒 8:29, 御霊がピリポに「近寄って、あの馬車といっしょに行きなさい。」と言われた。

こんどは主の使いではなく聖霊です。聖霊は神様ですから神様が直接語られたのです。

使徒 8:30, そこでピリポが走って行くと、預言者イザヤの書を読んでいるのが聞こえたので、「あなたは、読んでいることが、わかりますか。」と言った。

使徒 8:31, すると、その人は、「導く人がなければ、どうしてわかりましょう。」と言った。そして馬車に乗っていっしょにすわるように、ピリポに頼んだ。

使徒 8:32, 彼が読んでいた聖書の箇所には、こう書いてあった。「ほふり場に連れて行かれる羊のように、また、黙々として毛を刈る者の前に立つ小羊のように、彼は口を開かなかった。

使徒 8:33, 彼は、卑しめられ、そのさばきも取り上げられた。彼の時代のことを、だれが話すことができようか。彼のいのちは地上から取り去られたのである。」

使徒 8:34, 宦官はピリポに向かって言った。「預言者はだれについて、こう言っているのですか。どうか教えてください。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」

使徒 8:35, ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた。

イザヤ書 53:7, 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

イザヤ書 53:8, しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。

これはイエス・キリストの十字架の預言です。イエス・キリストが、私たち罪人が受ける神の裁きを十字架で身代わりとして受けてくださったのです。イエス・キリストを信じるだけで救われます。

使徒 8:36, 道を進んで行くうちに、水のある所に来たので、宦官は言った。「ご覧なさい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何かさしつかえがあるでしょうか。」

宦官のほうからバプテスマを受けたいと言ってきたのです。ピリポは

使徒 8:37, [本節欠如] 脚注 = そこでピリポは言った。「もしあなたが心底から信じるならば、よいのです。」すると彼は答えて言った。「私は、イエス・キリストが神の御子であると信じます。」

心底から=心の底から、

すると宦官は、私はイエス・キリストが神の御子であると信じます。と答えたのです。これがバプテスマを受ける条件です。

マタイ 16:21, その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。

イエス様はご自分が十字架で殺されることを預言しているのです。ご自分の死に方を預言できるのは神様です。そして三日目に死人の中から蘇ることを預言されるのは神様です。

ルカ 24:36, これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。

ルカ 24:37, 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。

使徒たちは復活されたイエス様にお会いしているのに、イエス様のことを幽霊だと言っているのです。たしかに死んだ人が復活して来たら幽霊だと思うのも無理はないと思います。

ルカ 24:38, すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。

ルカ 24:39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしに触って、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。

ルカ 24:40, [本節欠如] 脚注 = イエスはこう言われて、その手と足を彼らにお示しになった。

イエス様は使徒たちがイエス様のことを幽霊だと言っているので、わたしの手や足に触って見なさい。と言っておられます。

ルカ 24:41, それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。

ルカ 24:42, それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、

ルカ 24:43, イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

イエス様は使徒たちの前で焼き魚を召し上がった。焼き魚を食べる幽霊はいないので使徒たちはやっとイエス様の復活を信じた。

使徒 1:3, イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現われて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。

イエス様は復活された後使徒たちと 40 日間一緒におられました。イエス様は神の御子です。

使徒 8:39, 水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られたので、宦官はそれから後彼を見なかったが、喜びながら帰って行った。

水から上がる = out of the water

しかし、

お風呂から上がる = up out of the water

ここの英訳は、お風呂から上がる方です。ですから滴礼ではなく、全沈礼です。

結論

ピリポは御言葉に従ってガザへ行き、エチオピアの宦官に伝道してエチオピアの宦官は救われました。そしてエチオピアの宦官がエチオピアで伝道して、エチオピアはキリスト教国になりました。ピリポがみ言葉に従うことによってリバイバルが起きたのです。御言葉に従うと神様は祝福してくださいます。

マタイ 13:19, 御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。

マタイ 13:20, また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。

マタイ 13:21, しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。

マタイ 13:22, また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。

マタイ 13:23, ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」

神様のみ言葉を聞いても、神様のみ言葉に対して4種類に人がいます。

(1) 「道端にまかれた種」

御国の言葉を聞いても悟らない人。

悟らない人 = 理解できない人。

悪魔にだまされている人。

ヨハネ 8:44, あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

日本人の99パーセント以上の人は悪魔にだまされています。神様は悪魔にだまされている人を救うために御自分の御子イエス様を十字架で犠牲にされました。

(2) 「岩地にまかれた種」

御言葉のために困難や迫害が来ると、すぐにつまずく人。

中国などではイエス・キリストを信じているというだけで、牢屋に入れられますが、それでも中国人はどんどん伝道します。

(3) 「いばらの中にまかれた種」

この世の心づかいと富の惑わしで、御言葉に従えない人。この世の心づかいは大切なものです。富も大切なものです。「大切なものが最高のものを奪う」

例えばクラブ活動は大切なものです。しかしクラブ活動によって礼拝を守れなくなります。多くの若者は宣教キャンプで献身します。しかし献身するとお金が稼げなくなります。

マタイ 6:24, だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。

(4) 「良い地にまかれた種」

御言葉を聞いて従う人、ピリポのように。

私は、ベテイ先生から愛(長女)を養女としていただいたのですが、愛は4番目に生まれた赤ちゃんでした。1番目は流産、2番目も流産、3番目は1か月生きて亡くなりました。4番目に愛が生まれた時、お母さんは出血多量で亡くなりました。

私はその話を聞いた時、私と家内に置き換えて考えたのです。赤ちゃんが生まれた喜びの日に家内が亡くなったら、どんなにつらいか、また赤ちゃんはかわいそうです。

ベテイ先生は、「この赤ちゃんはかわいそうだと思いますか。神様はこの赤ちゃんが必要だから生かしたのです。神様は必ず益にしてくださいませ。」と言われました。私はショックでした。お母さんが亡くなった赤ちゃんを神様は益にしてくださいませ、なんとすごい神様だと思いました。

ローマ 8:28, 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

を思い出しました。私は肩こりがひどく、好きな物理もやれないが、神様にゆだねたら神様が益にしてくださいませと信じて神学校へ行く決心をしました。滝山教会へ遣わされたとき、礼拝出席者は15,6名でしたが33年間牧師をやらせていただき退任するときは120名ぐらいになっていました。御言葉に従えば神様は必ず益にしてくださいませ。

【説教:大木英雄牧師】